

みんなにやさしい、特別支援教育（14）

特別支援教育には、いくつかキーワードがあるように思います。ある保護者の方のブログに次のようなことが書かれていましたので、参考までに掲載しておきます。

◆特別なものでないし、特別なことにしてしまってもいけない

ごく普通のことを丁寧に、そして当たり前にするのだと思います。

◆発達障害児と関わると言うよりも、発達障害があっても関わる

僕自身は、“発達障害児”という表現を使いません。なぜなら、発達障害児という枠にはめて、ひとくくりにしてしまうようなイメージが僕にはあるから。

発達障害のある子どもたちは、発達障害という特性を持った、どこにでもいるスペシャルな子だと思っています。しかし、“発達障害児”という今まであまり関わってこなかった、よくわからない特性のある子どもたちと関わらなくちゃいけないという思いが、先生方を困惑させ、また二の足を踏ませているようにも思えます。

◆必要なのは、ちょっとした工夫と配慮

声だけの指示ではなく、黒板にも書く。必要なくなった黒板の文字は消す。教室の前面をすっきりさせる。窓際に、子どもたちの興味を引きそうなもの（金魚鉢や工作キット）を置かない。などなど・・・

こうすることによって、子どもたちは気持ちよく授業に集中しやすくなります。先生は何度も「こっちを見なさい」とか「静かにしなさい」って言わなくてすむし、おまけに今日からできることばかり。

◆なぜできないのかを重視するのではなく、どうしたらできるのかを考える

こんなことがなぜできないんだろう・・・なぜ指示が通らないんだろう・・・の一步先を行って、どうしたらできるようになるのかを考えると工夫が見えてくるのでは？

◆子どもの”できた！”は先生の”できた！”

子どもが達成感を味わい、“困った”が減っていけば、それはダイレクトに先生の”困った”の軽減につながるはず。それに、子どもたちの小さな達成感の積み重ねは、本人だけに留まらず、先生の達成感にもなっていくんじゃないかな。

天国の特別なこども

Edna Massimilla 作 大江 祐子 訳

会議が開かれました。

地球からはるか遠くで

“また次の赤ちゃん誕生の時間ですよ”

天においでになる神様に向かって 天使たちは言いました。

“この子は特別な赤ちゃんで たくさんの愛情が必要でしょう。

この子の成長は とてもゆっくりに見えるかもしれません。

もしかして 一人前になれないかもしれません。

だから この子は下界で出会う人々に

とくに気をつけてもらわなければならないのです。

もしかして この子の思うことは

なかなか分かってもらえないかもしれません。

何をやっても うまくいかないかもしれません。

ですから私たちは この子がどこに生まれるか

注意深く選ばなければならないのです。

この子の生涯が しあわせなものとなるように

どうぞ神様 この子のためにすばらしい両親をさがしてあげてください。

神様のために特別な任務をひきうけてくれるような両親を。

その二人は すぐには気がつかないかもしれません。

彼ら二人が自分たちに求められている特別な役割を。

けれども 天から授けられたこの子によって

ますます強い信仰心と豊かな愛をいただくようになることでしょう。

やがて二人は 自分たちに与えられた特別の

神の思召しをさとるようになるでしょう。

神からおくられたこの子を育てることによって。

柔和でおだやかなこのとうとい授かりものこそ

天から授かった特別な子どもなのです。”

